

## 総合心療センター デイケアパティオ

室長 川渕 忠義

### はじめに

令和 2 年（2020 年）は医療分野に限らず、どの分野においても新型コロナウイルス感染症に翻弄された一年であった。当精神科デイケアも通所施設という特性上、集団感染のリスクがあるなか、当院の感染対策チームと連携し、デイケアの閉鎖や休所といった対処はせず、可能な限り運営を継続できるよう感染防止策を講じながらの運営をおこなった。その結果、利用者や利用者家族、スタッフからは一人も感染者を出すことなく、休職者のリワーク支援を継続することができた。これはなにより通所される利用者の協力なくしては到底困難なことであった。利用者、スタッフが緊張感を切らすことなく、変化に対応し続けたことでなんとか乗り切ることができた一年であった。

### 運営状況

運営体制は、作業療法士 2 名（管理者含む）、公認心理師 1 名の計 3 名体制でのスタートとなり、育児休暇のスタッフ 1 名の補充はない状況での運営となった。3 月より本格的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けはじめ、感染対策の強化を余儀なくされた。具体的には通常業務に加え、利用者の健康観察、行動チェック（県外等外出自粛、外食自粛）、その他感染対策の厳守を掲げ、新しい生活様式に対応しつつ、業務が増えるなかスタッフの疲労も蓄積していった状況であった。その後しばらくは同状態が続く中、10 月になり、ようやく育児休暇あけのスタッフ（看護師）が本部署へ復帰となり、4 名体制での運営となったことでスタッフ個々の負担は幾分か減らすことができた。一年を通して変化に対応することが求められ、これまで当たり前に実施してきた治療スタイルを変更しながら、なおかつ治療の質を維持することに力を注いだ。

### 実績

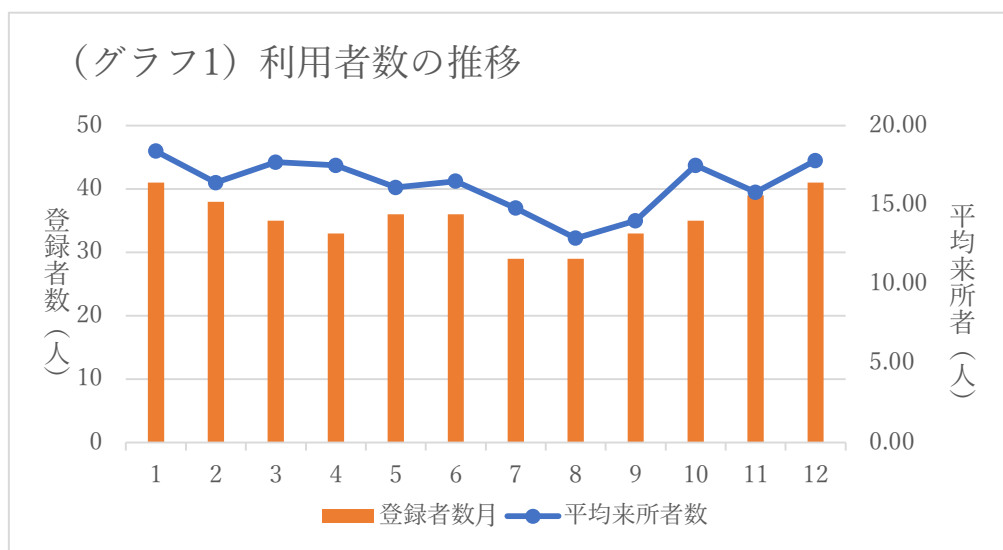
活動実績としては（グラフ 1）（グラフ 2）に示すように、年間入所者数 38 名、年間退所者数 44 名であった。入所者数は昨年と比べ、20 名減少している。新型コロナウイルス感染症の拡大が大きく影響した結果であり、入所を控える休職者が多かったことを示唆している。また利用者の一日平均についても入所者減の影響を受け、16.3 名と昨年と比べ 4 名近く減少。施設の特性上、集団活動でもあるため通所を自粛する利用者も数名いたこともあり、このような結果となったと考える。入所した利用者の紹介元（グラフ 3）については、他院・クリニックからの紹介がこれまででもっとも多い 7 割近い状況であり、今後も他院、クリニックとの連携強化に努めたい。一方、当院からの紹介については減少傾向に歯止めが効かず、当院外来患者層、入院患者層との乖離がますます加速している状況である。今後、当院の入院、外来とリワーク支援をおこなう当施設の強味を探るべく検討を重ねていきたい。加えて、当施設の運営については、どの医療機関に通院していても利用可能であることは最大の特徴でもあり、なにより高知県の産業分野に貢献できることには変わりないため、社会のニーズに対応した施設の運営スタイルは変えず、さらなる認知度の向上に向けた動きは継続していく。

職種別（グラフ 4）については、公務員が 7 割弱、会社員が 2 割弱、再就職を目指す無職の利用者の順となっている。今後も事業場との連携強化は継続し、よりスムーズな職場復帰支援ができるよう、事業場のニーズに応えるべく各スタッフの力量を高める取り組みをしていきたい。再就職については、利用期間の長期化が課題となるが今後、ハローワークや障害者職業センターなど他機関との連携を図り、利用者のペースに合わせつつ、可能な限り、早期の就労支援を目指していきたい。疾患別（グラフ 5）の内訳としては、例年とほとんどかわりはなく、軽症のうつ病群を含めたうつ病層が多く、次いでその他に分類している適応障害が 2 割、発達

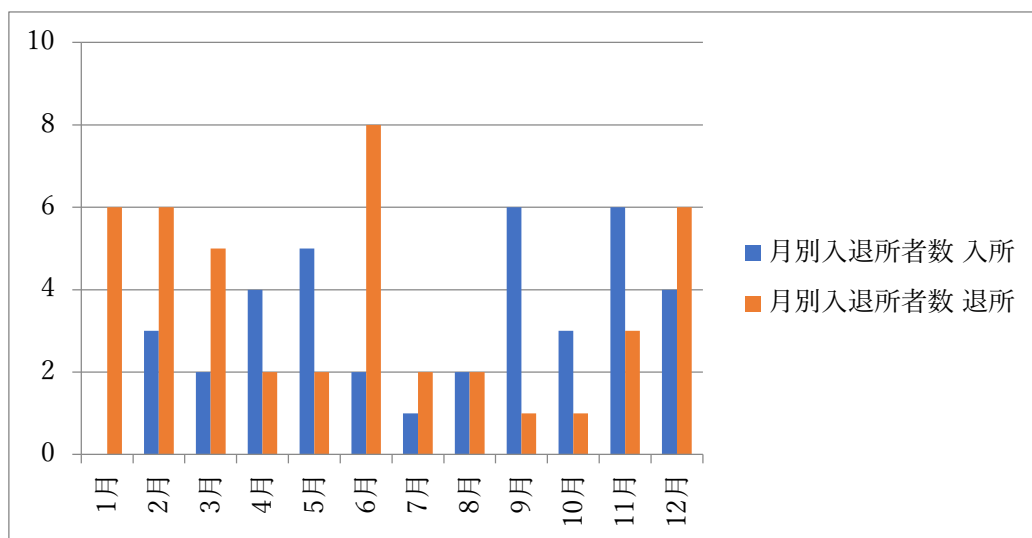
障害の順となった。疾患別については例年と大きく変化した点はないが、利用者の平均年齢については 40.8 歳と若干ではあるが上昇しており、今後、疾患との関連性も含め、経過を追って観察していきたい。また入所から退所までの在籍期間（グラフ 6）であるが、例年同様、半年から一年の期間が最も多い結果となったが、3 カ月～半年の期間との差は縮まっていることから、利用期間の短期化は着実に進んでいる状況といえる。より濃密で速やかな職場復帰を支援できるよう努力していきたい。

## おわりに

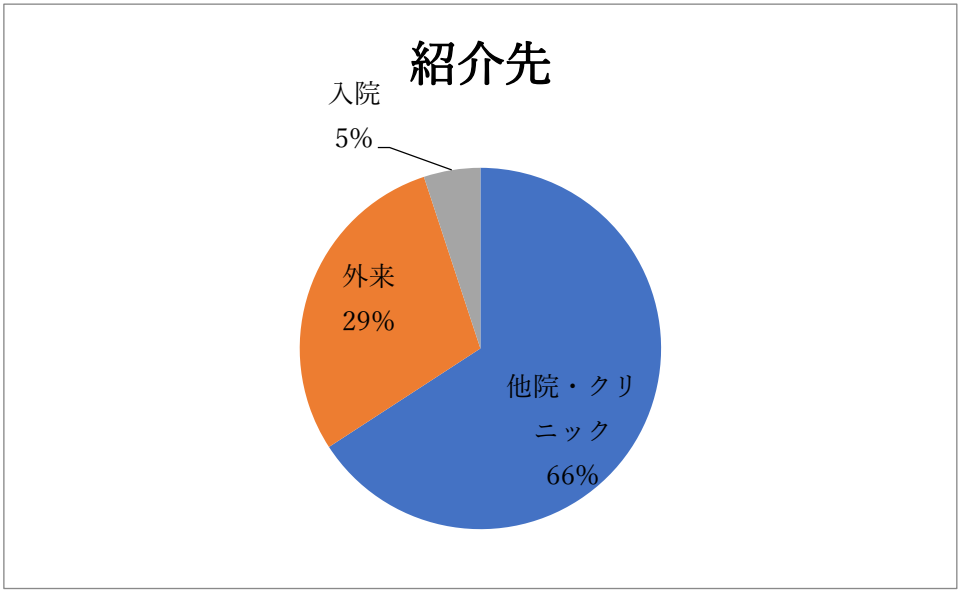
次年度については、新型コロナウイルス感染症の拡大状況にもよるが、その影響を最小限に食い止めつつ、さまざまな変化に対応しながら、いつでも通常運営ができるよう体力は維持していきたいと考える。昨年、入所や通所を控えていた休職者が自身の回復に向けた取り組みを早期におこなえるよう積極的に働きかけ、また当施設が早期の社会復帰を目指せる場所として広く認知してもらえよう魅力ある運営をおこなっていききたいと考える。



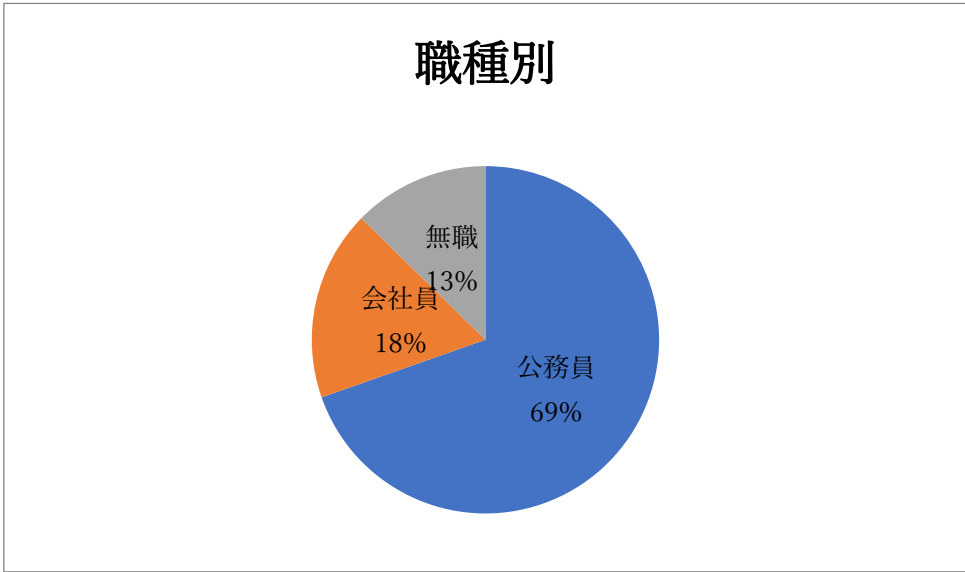
図・グラフ 1 利用者の推移



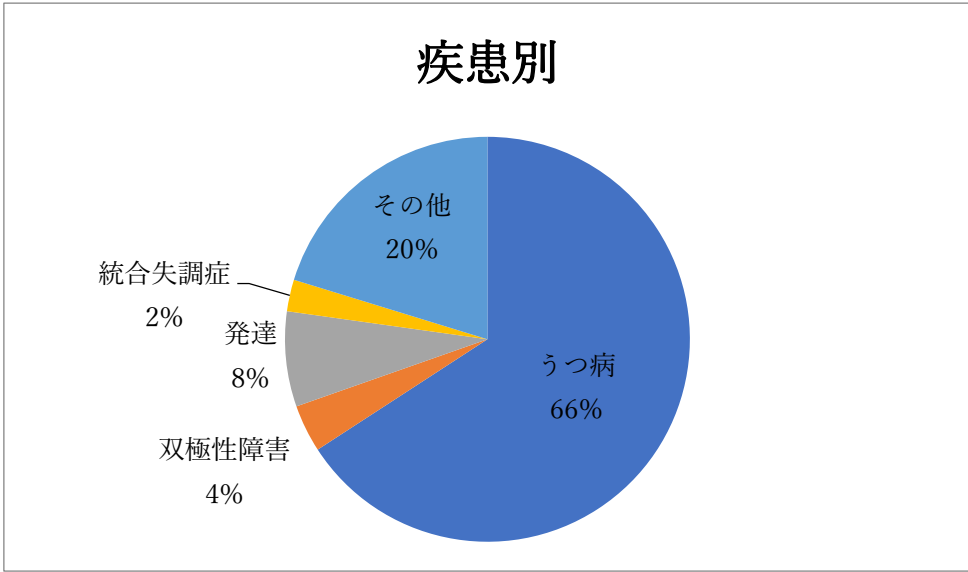
図・グラフ 2 入退所者数



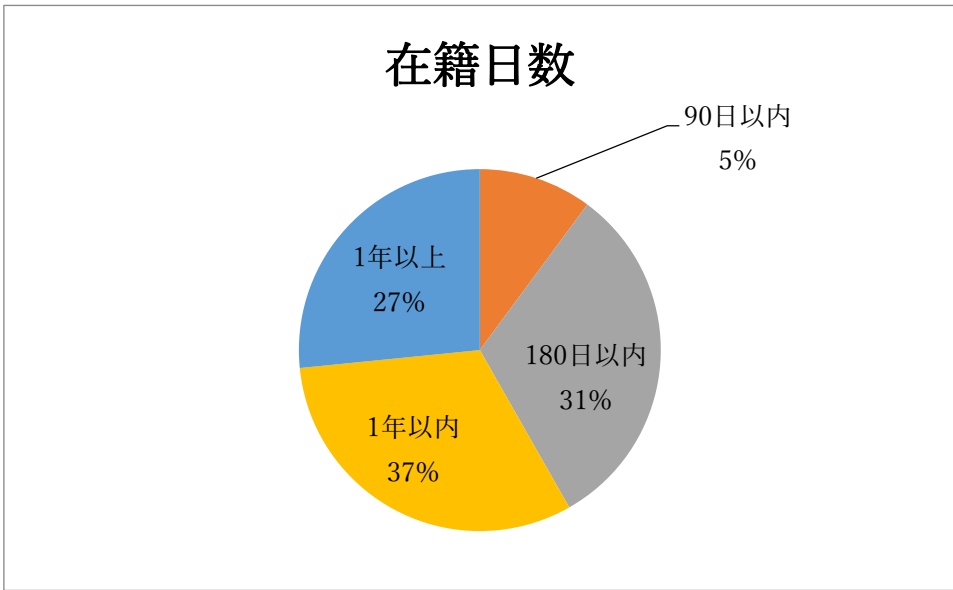
グラフ 3 紹介元



グラフ 4 職種別



グラフ 5 疾患別



グラフ 6 在籍日数